

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 友野晴夫

1. 概要

歩行名称にはブロック名（会則に記載）と概略歩行区間を記載する

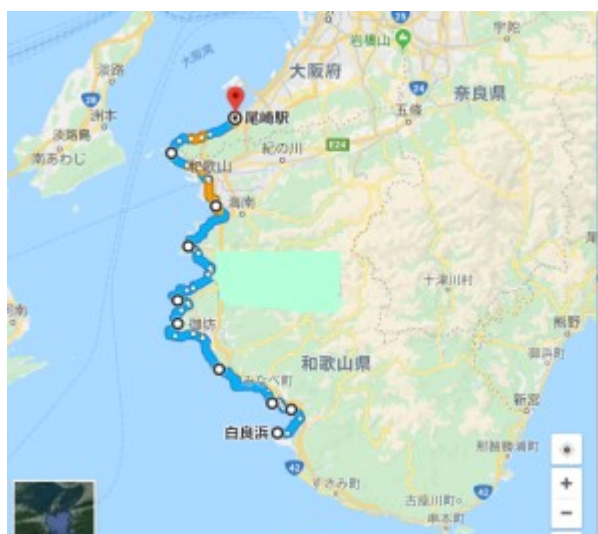
歩行名称	近畿9
歩行区間詳細	スタート地点:白良浜海水浴場(和歌山県西牟婁郡白浜町)
	ゴール地点:尾崎駅(南海本線、大阪府阪南市尾崎町)
実施期間	2019年3月15~20日
全歩行距離	192 Km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	L	友野 晴夫	65	6日	
2	SL	林 和広	65	2日	

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	3/15	白良浜海水浴場 ~ 南部駅	27km	友野、林	
2	3/16	南部駅 ~ 由良駅	53km	友野、林	一部は2/24に林が歩行
3	3/17	由良駅 ~ 湯浅	25km	友野	
4	3/18	湯浅 ~ 海南	37km	友野	
5	3/19	海南 ~ 磯ノ浦駅	24km	友野	
6	3/20	磯ノ浦駅 ~ 尾崎駅	26km	友野	



4. 参加費

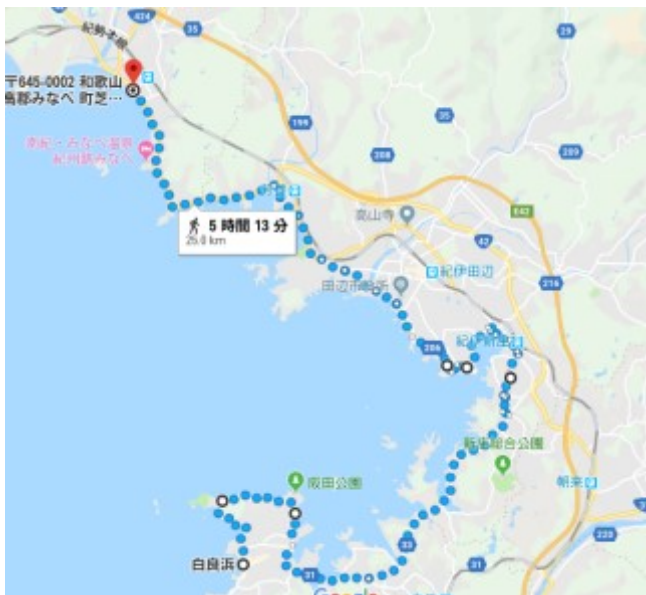
参加者延べ日数 (2日×2名)+(4日×1名)=8日

参加費合計 800円

5. 歩行の詳細

3/15 白良浜海水浴場～南部駅 (27 Km)

天気: 晴れ後曇



①友野(白良浜～紀伊田辺駅、18Km)

635 和歌山駅着、友野は横浜駅から夜行バス(9700 円)で和歌山へ行く

654 和歌山駅発、紀勢本線の鈍行で行く(1660 円)、海岸線がきれいに見える

855 紀伊田辺駅着、

928 紀伊田辺駅着発、バスで海岸へ行く(630 円)

1010 白良浜海水浴場着、スタート地点で写真を撮る



1020 白良浜海水浴場発、円月島を眺めながらあるく、海の水が透明できれいである
海岸はホテルや旅館が多い観光地



- 1130 寒さ浦、橋と港がある
- 1230 コンビニ、パンとおにぎりの行動食で休み休み歩く
田辺港を周回する
田辺市の海岸である扇が浦の浜を歩く



- 1415 紀伊田辺駅着
- 1425 紀伊田辺駅発、紀勢本線に乗る (200)円
- 1440 南部駅着、
- 1510 温泉民宿にしかわ(2食付き 7000円)に着く、林と宿で合流
夕食は、林と女将さんと2時間ぐらい長く、楽しく話しをする、和歌山弁がきつかった



②林(紀伊田辺駅～南部駅、9Km)

■コースの概要

御坊駅 (9 : 11) ==<JR きのくに線>==(9 : 55) 紀伊田辺駅 (10 : 05) … (10 : 25) 出立王子 (10 : 30) … 潮垢離浜の記念碑… (11 : 00) 天神崎 (11 : 20) …目良漁港…牛の鼻… (12 : 05) 芳養王子 (12 : 20) … (13 : 12) 鹿島神社 (13 : 27) … (13 : 40) 切目駅 (13 : 45) …南部海岸…国民宿舎 紀州路みなべ… (15 : 30) 温泉民宿 にしかわ

■地図



■メモ

・紀伊田辺駅舎は現在工事中で、隣接する観光センターに立ち寄る。南に向け商店街を歩き始め、弁慶の像がある湊の交差点を右折する。歩道と車道が明るい茶色に塗装されていて、歩きやすい。



・蟻通神社をすぎると、左に中辺路と大辺路に分かれる道分け石がある。商店街の中を西に向かって歩き、会津川に架かる旧会津橋を渡り、県道 210 号線にでるとすぐ右少し登ったところに出立 (でたち) 王子がある。



- ・県道 210 号線に戻り、左折して江川児童公園内にある潮垢離浜（しおごりはま）の記念碑に着く。昔はこの辺りは出立浜と呼ばれ、海水に身を浸す潮垢離をすませ山深い中辺路へ向かうポイントになっていた。
- ・県道 210 号線の道路標識に沿って、県道を左折し天神崎に向かう。海がどんどん近づき、田辺漁港やマリーナなども見え始める。天神崎には 11 時に到着する。きれいなトイレが設置されていて、田辺湾の対岸、南に白浜が見えている。海岸には平坦な海食台が広がり、干潮時なので丸山まで陸続きでタイドプールもいくつも見えている。天神崎は、ナショナルトラスト運動により自然が保護された岬だ。海岸に降りて丸山を見ながらランチ休憩にする。



- ・ここ天神崎を含め南部から田辺市街、白浜に至る地域の地質は、付加体である四万十累層群ではなく、その後に堆積した砂と礫の互層からなる田辺層群である。天神崎の海食台も硬い砂岩が広がっている。昭和南海地震（1946 年）のときには、田辺と新宮付近が沈降し、串本付近は 70 cm ほど隆起したことが知られている。
- ・元島を左に見ながら目良漁港を回り込み、かんぼの宿 紀伊田辺の前を通り、防波堤から北側のみなべ町の大屋や堺の海岸線を見ながら目良交差点にでる。目良交差点からは R42 号線の歩道を歩き、田辺芳養郵便局の角を左折し旧道に入る。旧道を突き当たると、芳養大社に着く。広い境内の中に芳養（はや）王子がある。



- ・神社の北で R42 号線を横断し、松井橋を渡り山手側の農免道路に入る。さらに北側では、紀勢道路の紀伊田辺 IC と接続する R42 号線のバイパス道路が工事中である。十分に広い農免道路を歩き始めるとすぐに井関隧道が現れる。すぐ南側を国道が通る場所に並行して広い農免道路があるのは何か理由があるのだろうと考えながら快調に歩いていく。みなべ町の埴田（はねた）に入ると R42 号線と農免道路がまさに並行して走るようになる。国民宿舎 紀州路みなべが建つ埴田崎と鹿島がきれいに見える。



・今日の宿を通り越し、旧道に入り南茶屋橋を渡り鹿島神宮をめざす。鹿島神社には13時12分に到着する。広い境内の中にある石のベンチで休憩する。部活の高校生が汗を流している県立南部高校の前を通り、南部駅には13時40分に到着する。



・埴田崎の宿に向かうのに、駅から南部の海岸線に出る。砂利の海岸からは、南部湾をはさんで、右に南部ロイヤルホテルが立つ目津崎の海岸線、左に鹿島と埴田崎が雄大な自然美を見せてくれる。海岸線を歩き、埴田崎にある国民宿舎 紀州路みなべの日帰り温泉で一風呂頂く。



・今日、白浜から紀伊田辺まで歩いたWVの友は既に宿に到着しており、合流し再会を果たす。温泉民宿「にしかわ」の女将のノンストップトーキングに圧倒されながらも楽しい夕食を頂く。女将の話から、農免道路は旧国鉄時代の南部駅から芳養駅間の線路跡を道路にしたものだということがわかり、地形図からもその痕跡が読み取れる。旧の線路は、海岸線の埴田崎を大きくカーブしながら両駅を結んでいたが、第三芳養トンネルの開通で廃線となり、その後線路跡が整備され農免道路になったものである。

